

宇治拾遺物語

五

失八

うるあら下す一目録

一猿仰げとをとれ事

一千の院落ふ仙人よめよす

一筋にき則壁術

一発も和尚教事

一越あへる夢の女親高たときゆよす

一くうすけつほとひくやう入す

一恒心の事わかとまくわらの事

一さうして死とまくさむく

一ち安ちおぬかよかすく男差マラス

一博打聲入のす



一伴大泊と號應大門

一放琴樂の運よ是琴よりす

一堀川院の運よ萬葉よりす

一淨慈のやめの坊よ強盜りつ事

一ほりのまのうこりこのよつ

一若妻人生懸をきくむづる

一やあまの事

一差人とんじ代事

一小枕あま事

宇治拾きあは下が一ひよ  
もうちあらの山よひよくどきよひよもく  
やうはれて防と外かきう一あらあよ猪師うり  
はひ一里ときてつむよやまくしてぬをまうりふ  
とくさりのまへきあらうりけきや餅袋よ千のひ  
きへてつむてちまのいに見て日はのあすけり  
うさきのぬうれゆるうりてのぬやすらぎ  
やとせくなくたとむりうるは年は地念でく  
強とたもらまりてうるあらへやらそくは普  
冥界がよひりてみくらこうひくまりてたつ  
ゆへといひききもあの猿師よおせだくよしうし

されゆうへとかうりて糸をくらひてせ  
てひつまゐはとからりて糸をくらひてせ  
りつうるるもやそのゆきとばぬとこねつみにあら  
じとやとくとこをこスかとくみまりて後とよ  
よ獵師我ちこまうじこりやううとてのううろ  
うつむひせすとおえせあり九月廿日れど  
なれとせきかう今やくとてのううやうよみ  
とゆふ祖よ東のみれ歳ううり月のううやうよみ  
て岩の山もすきよとおふこれ坊のううきゆ入  
もやうとやうくならぬそれも巣葉井象よお  
てやうくわうてのゆうよみうきくらひ

きとねづみてりよやゑへたうくまうやとい  
のくわりとやうれんもれとくをうそひくり  
しきうととて獵師思ふやう坐やまは燈をと  
たりう語ゆたとくを目りうるみくらまのひ日  
や我力なしとて煙のひきくらうとめあくらうと  
くうとくへえきぬとせとひうりよもひ  
てほゆじとくとこれむくへまくまうすとわ  
ひくとくつをうよけひてひつめにだうくへ  
と付くとくとく胸元祖ようよがやうよてゆとす  
けつとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

行きをひて是をつゝへてうとうといひてゐ  
まよふ車限う一男。一りもひづのめい小一そ  
みをあらうまうけこつまちの冒小みのへ試  
まうひとやく村けりやまの佛うもひも夫ひ  
らぬも一それきあや一物するもソヒタリ教ぬ  
て血をとめて行てみりきを一町計りて谷の夜よ  
たなう裡ひのうちとつてやとく死をもてあく  
て力をまきりひまされと無をされまうやう  
はくゆきりや猿師なれどもだりんもうつうり  
のをとあるまを村官もとけとううつてくせ  
むすみれ千手院の住活け静観傍ふとやう

ゆく東又お腰ぬ脛左を振りとくとくとく  
てくらひるなりあらまく人もまくくとくとく  
きり陽勝仙人トヤー仙人きとえてあの坊ひ  
とすれらかひく小のト急とまくとてぢりて  
獨のがて奉ひへるおな僧むやーを思ひて  
とひりひそく奴ひのむのやうなうじふてや  
せう仙人こそひなりをとすれひつせうの佛院座  
尼のをと兼つてあらはなりとのおれをそア破れ  
て一やう劣らきりをあへてある井源のまほひ  
あれともちくさりと香爐の煙をちらりとすを

てきのをされも僧むつうろをらしくテトモセ通  
りうそとよまつたりてやへのもつまつたり僧  
はやうとつううろをテーうきてうふもとえ  
うそがううは仙人へゆきほひ強けく僧  
のがまひーとうをよりとゆうはあやーや園  
のううへしてあらんだけゆくつまれくと  
やうてそつむるを活けく

若陽成政活つてれつーうりく呵あや道則せん  
ーとお陸奥へくうわひくは黒國ひくうやつ  
れ。やうりと那の日よやとよくもちのううくーて  
りてうて後ううーの教日へるお引ミしておな

もねくさううれもやからびまとてうもくう  
もくよこまく屏風となてもじしてうもがとば  
けよあくやまとてうほくやすたやうよもう  
らひたまうな物もやうしとつうーま香  
かすもよくぬにくくじきえてうのそまとミ  
まく年せ八けううかへうりうりやうくと  
うすくううううしもソナラムリう唯  
ひうりうありみうまくこくと有つましらせと  
あらうへりううやまと丁のとふととしてあれ  
きううくうりさてにれと則思ふやうもあく  
ひじうよりてうてしもーうりほう教日ひ事と

「わざわざお出でにならぬ事一もござり候  
この人のうりは、僕とみまよをあくし事を、うふ  
ア」とおちて、「おてやのうへ、みゆきの事、うふ  
もおとろまくらかうひきて、ヨリひづり  
りほしりくたまきくわく、おぼれに日月へ、晩月十日  
は、ほくまきと、かくを、一、うきのつる、男さか  
おおきい、ア」ア、よ重限す、ヨリ、きるをもるえ  
て、ゆのと、うちへ入る、ちと、くじらを、やう  
る、うけ、ミト、き、うがうら、チ、きふく、く、もゆとこ  
うよソウ、男の、うへ、カウ、ゆき、うき、う、は、  
くわてみる、物うへ、だらう、きうや、三、能、さ

くわや、とが、うひの、じき、球さく、うやうて、すく  
て、あと、うへ、う、大、よ、な、だ、ころ、よ、て、ほ、め、の、や、く、え  
け、な、も、よ、す、ら、れ、わ、あ、の、男、こ、く、り、て、う、や、ア、み、く  
う、り、く、に、か、ま、ト、う、く、か、と、て、う、り、ひ、く、て、よ、く  
もの、そ、く、や、け、く、お、き、て、よ、う、ね、と、う、へ、へ、を、う  
て、き、く、く、よ、ひ、う、に、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、  
う、  
う、  
ア、て、は、男、う、か、ま、ハ、レ、ン、シ、う、り、て、よ、く、あ、さ  
き、う、り、よ、て、お、の、た、と、こ、り、く、か、た、ま、き、あ、て、こ、  
う、き、う、り、よ、て、お、の、た、と、こ、り、く、か、た、ま、き、あ、て、こ、

まうこれも又あけりうりて出まわさとあさま  
トふらむねりよまうてう色つきてたりくれば  
是せ八人まである事とやうよがま。一けよみを  
くすまほとよねとゆけぬまもる則思ふや。よ  
ひよあやーかそーうきとす。けふとー事ーと  
思はまよとくしゆをうちまゆ。死ゆのうまきやと  
くじてんとやくつたぬもてあよようまでお  
きへせハちやう行やくよ。うとうひして馬  
とまきてくうおうりきつまつてふろま哉よつ  
そくらゆとあーうきてりてく馬とひつづくまて  
そうりけうやとよめよひ。けくあふなりこれや  
うとそとへそびくゆのあさせと併ぬとて彼  
くれわとハシラくもとくそとくそれり。ひそくの  
くとくぬあうううてし色とくゆうとくよこれと  
くへやとうを隠くうりそれやひうひ集てあつを  
従こしもとくうとくうとて取てこまも松草とけ  
けみうつうとくやうとくうとて取てこまも松草とけ  
くとくもとへくれやうとくうとくうとくうとく  
くよまくとくふか。人ぬあうりーとくふかとくを  
さて使へやそて馬をもとめてくうぬそりわ我力よ  
きつうりてあるをとくをあうりとくひうりとく陸  
奥す金のうとくをとくをとくをとくをとくを

身のひとへひてやうりぬくもしよ金馬す  
かもとむらくとらひ那國すふくらうひと  
あきはりすちか一こくをもあうとつひれそ  
らうくらうてりよ移せりくらうまう一事  
されそすもあれ。ありてゆし町ちやまゆの  
候へんびつうらうくらうやつよくせゆとおが  
くえできなれそそりくらうせひそりのまくよ  
ゆうまくらうくひしきみの國へをくひく  
まゆくらうの幸よまそ候へくほのまく  
く候へよめひてヨハラムよりてるしゆくくの  
とく告てあまようあらひてもまく  
神はよしよとけくて留ひなりりう  
もんこぢりきともえよひそむやきのゆ伎  
うち速子のわちを跡くわくわくやトキそもひ  
タヤヒのまくの契とすてのわちて全  
こたつをこまくこまくや一とくらゆめ日よ  
うねくらむからてくらひそとくすれも那國大  
あれをぢりのまくもくとくへもと思ひて  
七日水をあそねきとして留まくことよそのまく  
お清うもつてその日水缺てくわくことじまくと  
れ山入ぬ方す河のまく野をとまくとてぬ

所の事とをえりとて飛んで元老院と  
なぐらを乞うれば那日は水止りぬれ川よ  
うりなりれあもおとづふもく思つてこもまが  
まてとあれとぞとひてけぬあすつるのう  
まてゆ止りてゆあゆり風吹てくさるの水  
かへまうニワ一うりて川よすりやうら一せまは  
うるなう大蛇の首をしづ鞠と入あうやうまでせ  
うるや鉢をと塗もわうよくひのき二ハルカや  
うそてみめびとあしゆとつにきといひ所と  
もちんとくらむうろくまのやうすねふ  
アあらえおぬまくまよくあつわやいひ  
あらえくわうそつまことらむなりといひ先  
もくくわうまうとうがくくへこれ事へきう  
日ぬアこのひて今一なみんといひと又へ  
らすけうりてやとうりう猪のあくべつま  
とゑとうくとくへじしゆがまくへせりけ  
せらへてきてゆきしわたくわそうでこく  
みまつねふべニヤうもうとつこまたり神く  
くわしまをうめりうはめりもくらわみて  
よううりひとくとうつへうめりあんこよみ  
教えありせりふとくともくくとどく

まへんてうしめ事へもあひ物をもあまね  
まことに事へつらうすとおとちへふきとせーへ  
なうひぬりうれもうれ波さへてこそてうる  
られてぬのやまぬく御さる眼うへ大肉よあり  
てあやこのもきくもことうじひとて  
えりぬすようてほらせおま薬當と三尺も  
うるをう鯉もうて巻盤のうへよやたらもる  
すとすらうせ門のうとまくしめとくろア  
カギくよーてすとせおうり西れすけうへよ  
つと聲教につりうきわへ

まのううよ宝ふねあひへひうるく  
ううとくわうそくの門は重ひもく、と新よ  
うきこらんとて誇仰うんとほりつてり一人  
とてはおたつゆうとうりとて三人へてあふよ  
うすくえうわゆくうきてほうをうをう  
三人のゑしひうのうへあひてくせもとと  
義へあうてかううやうやう志もととひてば  
服の裁まとて出うひのうと三人代縫院をのく  
くわま猪とひうりく三人すうひて華とくさん  
とせだよひいまうもうく我ましと代縫うりうれ  
をきてつまづめてとうりりきも急所左あさ  
くゆくすてひりあめの所新とこきくちゆひひつ

りふてひのりた皮とさーきりてのとをむへり  
のあてりあらまうり金まれ井みうふとさーせーちとー  
人れふーへ十一のん観るとみーへん繪師モ聖  
觀もとだつみまうりうきのくみうきうす  
つしまりておとありたまけきと西門をとろき落  
てをうちのほと落、ととやせのよひうひうやうよ  
とうがのひねうきとめうへそとせおもを  
ちと々りとやーあへつとく

越あひ國はけくらやりよふよととけりんありと  
ことくへとがうづとひわひへゆとくとく  
ちりかひあまうかよ又子とすとすとされとく

ひまかとく又万死ぬよつうくまけろこれかと  
りくわくらやりたのりくくととととととと  
うもせけのまと男こな下らきりなれとれやく  
と四ス人までやうもせけきとれたまくまくの  
まくらゆくのちやうもせけきとれたまくまくの  
とすくまうりうけ難しうきうりなどとてつ  
くふりけりやうよ母もう勞もんれもうれじ  
まうととくよひもすうとくあなとわなくとく  
まくとせぬまくとせぬまくとせぬまくとせぬ

じよきつふしてかつくしまとあしむやひ  
物ひまくまうねうねそくもくおせんり  
のまともあこへ來てくのまほはひまきのひ  
とりきなりきりかふしにまくすりう  
てまのうりこりこりらりへきつりふを  
うきうてくひてや我ぢやのぬしおりてた  
すけタヘと觀るよひひましなくやるよひ  
よゑみやうやうだうろん堂するを考る僧の  
来てのうやうやく一けきも男ちもせんとく  
りひよやりえもうとうらふれつしすうう  
れうりそよきつひてうくえりりとの爲と  
みくゆぬ山佛ひをりのくみかうりと思ひて  
水うちもみてありてかくくやて身をたのミ  
でうれんとねどそじらもきなまくとせせらうと家ハ  
大まよほりまうりひきや新ひもてぬをとこほま  
あへま事かりまとせうのをやがまうり  
がれへま事かりまとせうのをやがまうり  
て馬ひもとくりてもくへくる人やも  
のそくとすとみまも根人やこつたりあ  
りもやつ小居うとりをもこれへまくあくふつ  
りうちあひうし、うようやく物云々まびすとも

なくて我うへてせやつりあやつひひた  
里のうれしてみきへうすや三十人をかくもとこ  
のともさむけうやあき二三十人りまち下も  
なとらもくとせ八十人りるもあんとそみも  
れくせすすめがよむじろぬととととと  
と思へとそもくとゆくせよ皮子むろ  
をふひて皮るまで布て幕引きもしてゐねうく  
くほとよ目をくわせらもぬくふとくみくわを  
物力うたわめしもとこのうれりへとくせ  
てうとめぐるらうかくよれうらぬあくく代振  
くめりひそでびくとす人々うきぬへ西  
アーラととくとくふとうりぬんうてりき  
ミナリトとくとくふれぬもさりきくぬしき  
ミテヒツ色ほこハリシヒリ色とくとくも  
ミナロモセテヌニアリとくとくのとくく  
黒ひソアヌムトカキスニヒヌスヒ男を羨(うらやまう)  
あやうりうもうきうひもすすてうれ親う努  
るはきやううのううけはくとくおもとく  
らぬれしてううりう思うう妻をくれてやも  
りふうううううううう妻をくれてやも  
りのううううううううううううううううう

をよとうりて行ひりたりひづやこつう顔よ  
ひくきどるらふもかみへりれおきつまけ  
きそりうすとせんかねらううとのそきてみづよ  
うあらわに走りうりらうとじほしの日もくれ  
じもくもえておりとくとく善よしをくしま  
しまりゆみんとてへきごうかわらるめうらひ  
くらうよけめあまくふぬなうまくわあき  
くわくわくわくわくわくわくわくわくわく  
しま様よそりげうらうこよしだりびへ  
うまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
又八日物つあそとせく契とぞくむじくなり  
まもまをまえあまくわんじうの後者など  
とうとくしてせんそりのんじうよ物くくすくえ  
やうむらく馬よまくくくとまやうきくうくく  
やうよせやうとせうけきりう程よちやのまつし  
くれとくまくまくまくまくまくまくまくまく  
事うそひてうりとせやまくようりうりうう  
まくけぬよ来りううなまくつやんとめくそう  
なうんかまくまくまくまくまくまくまくまく  
しきれねや我力力うにこそ西アヘのまく

おうへんやつあへたりみし西はゆしも  
のじとく小ひくはいふとゆらしきと思て  
すれ候とてよもとをもとありひけりありく  
たるものなくむかすとならへやへくこと  
てはぬよこだりけりよひてゆるほしも西  
きせゆせりへゆくまわれきよそなうそを  
ゆくれとくのゆくあらんことをろがなう  
ゆくすりだもまれまわりへえれなとくと  
くとくひてにせきくぬくをりうすへうせと  
くもうちかやくもくちくの若校をうていやう  
あもあもをうりつしすれもうのねよとてれ  
りふものとくとやくとくきていゆるよあれもと  
くふつま西へくをうりうるもあくよくくとくをま  
ねもうだる日をくくはれとくとくとくとくと  
くへえやくもりくてるくううりとくとくとくとくと  
くのまうをかくよやびくとくとくとくとくと  
くわくやくも思ひとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

思ひうある人の事でちのり一筆ふりじて、いわう  
をややくとくと観音は導ひ、せぬありこやく  
いともとすうて命一まくねり則ぬとく  
さてまたりりとそくしゆともさきややうと馬の  
あきてうらへりてきくまつへつまうりく  
きとおのひんりてきやうよしゆくせ  
酒ひまきもく入よぐれしこりりかおぢやの  
美せお身うるうかりとふくよあそく  
てきまきとおもつおみとく  
ゆうあくひてほりまけきんかもうらうれて  
りやうやうひむりつてうおすすらしと思は  
へなうせわすくさうぬへきこまくや  
うすすれはけくとくうやうりにまくひて  
りうくのをうふも思ひだすを若校へこし  
ひよあんぐきりかくらはまぬもんそゆとくもん  
きいくつひとゆとやへもりきまくとわやうえん  
あとカヌもあくかくわんじなうとくよくこれ  
うの物とまくしてせ八十人をうちもあると  
てこゆくとくせまうけじとくりうらがくも  
きれとしもこれ、お見しきりもとくうこ  
今よりやうてうきもううてうもすると

ありりくつ入ままでしれこれ人のゆふたり  
はとてへくひぬきてこゝへとれどもがくもさ  
くあこよまきうるをも観ると念一まうねよ  
その口をもね又の日ふたりてこゝへるありのとも  
よやねびよとさしもんじとあらうる  
さうれ对つるもよそはまうらつみくわやとくに  
とじゆれとせぎうきいとくまくわのえ  
ゑのたのりは男ソリ一入きてぞうつうなう  
里子う事なまひやうち嘗もやうてくと  
おつまうなとゆりうなうをましゆうき  
多くともかくへあくせきてあきとまよへ  
さを浴となのみてとくもりよよきくし  
てあらとれぬ曉たんうけりとくもとよやうて  
つうえくまうくうりとくもりけきをすかあやうら  
キしこ思へとくとくすくえ物うきのみへ入る  
やけうらてぬうすくの跨う一う球あれ  
とくらをとんと思ひて哉ハ男ハぬえうすくし  
のまうままでこれゆとひとてやハ男ハぬえうすくし  
うへあらんとよあらう思ひうあわれ  
つうりきめひてぬよ一うをくへるもつぬ重と  
くあつぶことれあの世なうへとくもはよ是と

よつまくうちうを思へとくへもじく一うもよ是と

とてともまれもうかへやうやまうてんみま  
らを済すはくぬだもひくゆきへまことこ  
う思ひのよ致るこそかすりうる済はうんとくを  
らぬとこたゞはもとそよれかくとゆいわ  
里つぶよ思ふけとくていりんとあめんに  
アメすらちうねやおきくひなすれもく  
みととあ済へとてだとすれもゆびうの程を  
せともをうつるも思ふうりはまともくと  
あうせらぬくわかうかのまくとてあうすん  
こもうとと程うれむなれどに男ふくわたり  
鳥鳴れやひうえもひかへ三とまくまの  
くひなうて馬くくまきりいとひきと  
とすり程よ人の令ちうね又れうとまきねや  
りそあうとて振舞まし乍うとまくし  
うれ堂よりて親あひ西くよりうき物ゆくまち  
みまうすり親あひ西くよりうき物ゆくまち  
りやとらひてそれもこへかよとさず傍立ち  
うりこそりふののかと見ゆけうみもあの親あ  
のじうがゐるわらうと思ふア後ひあちうくと  
うりてらのへすれとアうちひりくつきと  
男まつともくあやしめひて走までたれ事  
そととすりくまほもわうもなひりうつと

のうまうとてくわしをす観音の所有は赤子日  
まりくまなりこれとみるゆりうかうじよのあ  
らしもくうりくまとゆへとはか思ひうけをま  
あけうめりぬとあたりふれてうきよとすと  
思ひうめりぬとあたりふれてうきよとすと  
思ひうめりぬとあひくもしをんのゆうゆう  
ももうせりひくねじらをまくゆげもと  
こもをねてまくしゆかうやうきつぶげく  
よこやあんせりとゆふかうくとだく  
よりくあがむとゆふかうくとだく  
きりしてなくおきのまで義理へあしるやう  
ぬむひくとて又よもやすくとなくてと  
ひきさすとくとけ、ひきとてえれへふる  
あつひはまうよして観音にせくりうううう  
ちりあつりゆへゆう物やけうとてちくくやく  
あうをばれともゆうようゆうもくうれよ  
きのうえとつぢくいこなうり先え日とへ  
よこく親盡のせき盡ゆうりうりうの男かう  
ひよせハナナニ成りてゆうとをれあくかう  
くうすけとびてあたつせば師うちきとくう  
つゝ僧れりとかうあくうれば師の佛とほくう  
傳書しまくへやうひよからそくうらまく

仏師よりとくとくとけりまほんもうなしおと  
て佛師と家子とひれこみの佛造ましと  
そひうるをもんすもあときそくうりとてとも  
のくそくをひきを佛師うきこくらひて取てい  
さんとせ取るゆやう佛師ノ画振りとそく  
他たてもうきそくも股こくを思ふとそく  
じくせめどそれら仏師もひづくうなれも功  
徳はくをひなくむすゆるよれのみとそく  
ゆやうがねとくのふつりくまへいくりい  
まちゆく日告かくうかとておこすえかりと  
ゆひれの佛師うさがんとくふとやせの事とそ  
あぐくとせあくれもりよまくすノ佛けくり  
まつねよはゆかくうとていくらをもううう  
こもうそうはねへふくちくあくよつ  
とく西くもんとやもんをうそくとて物をくらまき  
ことのきもう事たりとく我家とて物をくらまき  
てきつやつてまく一日にうちまきてださりハぬ  
けり日はをくらうりまきてばえをするぬとひ  
つてくすれとつみてうやくねらをまり萬フヒ  
うてえむいづん造ましとをりく今すれとう  
がうりを除くうひの種を生えてもくもあをう

即ちまよもとまちんこりひのまともすこく  
内湯そけつ家門あま、そくらしとすをう  
すやぬやむきらうよもくもくとむのまく  
まくしのぬまうまやうすをいひそとらをね  
そくよぬとをうとだりるとくてけくりとてた  
てまうりて仏のぬ眼さとへまうりてりのとてう色  
うれやびえれをうませうとと思おもして小み  
すらをハ二人うちりりうとしよふは佛師  
みとて夕ゆきをも小をもうみてとてソリーフを  
のぞき又ものとみてあもすくまうとお力ひま  
もきくおよきりもお妻ひうう佛師ノリヒムを  
ておまくとくり佛師仏のぬ眼へもく男の僧ゆ  
まくまくはものとく食べて封けみて玉からくりの  
とくみて涼子りてひてうれあものじよけり  
もんぬれやそれとくかげうもんとくくくお  
りひうう祖は佛師ノソクくやて入くるまくお  
き縫いのううて人の妻えいのうりやうくと  
うをひとひてうちとぬゑて佛師をまくとそ  
ち立ま逃りへ残といつきてまうもくくほ  
といひううしてりよやまねとまやりとにうつ  
ともやひうらわらんとあけうめと佛師をひう

モヘの事やあきのまをたのりよりもさへしやま  
とて称うひけしゆる氣え佛仰述のえもひえつ  
きたらて思ふやうにてあくびなどうらましきを、か  
まゆのぬりもまんしやつて称ゆきそよう股の立  
やどしあつむかしやも思もめかもく又新わ  
らしとくどうりを千萬の物をうきものう  
トやくわのくとおとらひかくくれようり  
ちうがのきのきよるるをとくへはうひとつ  
のりせめのきを佛仰とくしてゆくうちくて  
くうすけつとま仏成達つまりたうづく成達  
しまじにいひくほきをあひしく成達す  
人々りすもうちゆ一じもまぎりうるうき日取て  
佛成達一まんじくまことひーむきまくよ  
もおこひとて謹仰れあへよううらへせき  
とち自かりて謹仰れひそかまくらをやりて  
入よほほ仰りそりてあるともまくるちこ  
はなまをあととくとをしりつてくはうてハ  
まくもあひうあくとあるをそもせたり氣え謹  
仰りうからとすれをあくをひきりとてうだ馬  
を引出とてやとのもひのひやこれ馬とぬ布施  
まやまゆひもえもうせりとく又ヨヒヌム諸

力せり。此を御みまことかづひてあれをかめ  
まう眼布施うりうてみされさう。まく、あきて  
よへや思ふ。うへの物もうりすんだを説師く  
もじとすらは云ひまう佛と被難して後をどり  
すくえたりといひうれまう事よりもくもだよ  
のりおきぬかをよ。西と毛うきとてう。ひよへ  
て志氣れもまくへもまうとうに。師えりく  
とまききりうもてく鐘おてる座うるありて。物  
くもんとまうは。師えりくふくふゆうもとすり  
てう。うを波けう。波がくふくわやかく。たのみ  
下りましる。うけりまうりんとなり。れ。西  
きうまは。や。所まうりへ。從なんとそりへ  
とふたそきす。てうをもちらていめあれと大  
まうや。と。ゆよ。や。小じよひよ。うへて。れ。馬  
ものりよ。けつ。ひもと。そひよ。ひよ。う。ひもと。  
わをうらて。くれも。うりと。これも。もさきとす  
むと。出ふきと。そも。けよ。あうと。ひもと。くと  
黒て。ゆも。ゆうを。多く。の。う。あ。う。ひもと。くと  
うを。じ。うへて。り。う。り。よ。う。り。と。あ。う。う。う。り  
の。まと。これも。う。れ。馬。な。と。か。を。う。う。ち。と。す  
と。も。て。ま。う。け。を。人の。う。あ。う。チ。を。う。う。と。と  
あ。う。う。え。り。う。と。と。ま。う。け。と。と。ま。う。け。功

徳へもとしやひきびへとし  
あひやうとうとあつひうとよわうります  
まか続あ國やアのしわうとつりあふをみ  
又うこよもつゝとあるまんぢりあつてま  
まうあがまうきせえとそあひうとめにほけ  
こまうりてくやうとましとすとまく渡てつゆま  
さうせうれじるわくひまけのこひくまうと  
そむふとまうとしまれをまこととくと  
のく佛くやうとましとまうとくのりとつうと  
うきうりだうとめへあおとくたへゆ  
あやう寝の腰のそばうとまう頭あそと  
の腰あれぬきうきうとまくわうとくとまう  
へくうくねうとどるく佛代書しまへと  
かるまうくやまうのゆかへりのく佛代類し  
まんじてあねと西立日うちうととと  
をまうなりまかへ一昨日をれうわづとま  
わづとくものやまうひうれうとまうひつま  
とくへも打うるうつふ事うあやうひてあす  
を待つまうかうりこひひてわざううきわれへり  
ししもやうり井うと祖よつまうまういへとま  
ふされもとと思ふまうやうともうれわとく

大まかにうらやましくてさうしてさうしてさうして  
ひのまうととくともあくね客一二キセクリモ  
西行雜文如きもほきよつておもてうすびぐく  
りてこゝり諫師のじむかとてこゑいか、四そへ  
あり諫師もあはひなうんばくすも僧とをし  
ゆうりうりうりうりうりうりうりうりうりうり  
諫師もあはひなうんばくすも僧とをし  
うもその諫師とをうけ活きてもうか佛とくわ  
うせんすううやうもうけ活きてもうか佛とくわ  
くやうもううやうもうか佛へわざくれり、もと  
さりうけ西く送達とせとせとせとせとせとせ  
安てううととなりとてまきせえや供とりをもび  
佛くやうもんとすうきのこぢりとしたきた  
くく六千くみと赤躰ノニ五六十計ならへ  
もきりくわえもまそりとまくとあきへたされ  
とじへと連やるあひてゐるもよつておとねう  
こよば佛とやうもんとまくとあきへたされ  
うううううううううううううううううう  
まきりくわえもまそりとまくとあきへたされ  
やうのよばれうまくとまくううううううう  
まきりくわえもまそりとまくとあきへたされ

仏師とうをもてひらうやつよやけまとも  
うさわうふらしは男佛めのとまされたうか  
らしと思ひてうれ佛師もりくふううとうく  
ゑいゆでちるうゑいゆとひゑもきくきをつも  
うよりへこいゑもえ男うかへてうひてきたりひ  
らつうううう佛師のみもくう六十うろもなう  
まであらぬよみうらん即こみもげれしま  
てまきゆきふすうひてぬうよこべ僧モ佛師う  
うくへきよしこつよあきゆきう佛やばくうう  
うくつえ他まうりうりとつうりうりうりう  
れそくくつぶけうりうりうりうりうりう  
うきえう小ほくもとくまうりあくううう  
うくしりひもすとこくふとキリうすとまきをさ  
うすとくう佛師あくもはうりふらをうやりき  
も佛師をうりうりをもくもくうりふらをうやりき  
ひひりひこりをもくもくうりうりふらをうやりき  
うてうりうりうりうりうりうりうりうりう  
うてうりうりうりうりうりうりうりうりう  
うてうりうりうりうりうりうりうりうりう  
うてうりうりうりうりうりうりうりうりう  
うてうりうりうりうりうりうりうりうりう  
佛師くつまきといてうきうきうきうきう  
佛師くつまきといてうきうきうきうきう

難しもん謹師してうべ佛さん佛と名とひを  
まつりもうれともひきて打つる事一中  
ことわく功徳もなれとこまくしあやの  
のときようく希有の事やまとたはりりや  
今もも大隅守り人國の政とふくめがるひが  
あひた教団のやけながらをあれをすりやうて、  
うのんとせよかねりそとりうがくと  
まづゆき色よさくせんがくうろくいよび  
うとうり氣へだるわんかひくいやひのうだ  
あくれもとくくどうりとてうきうりぐり  
あくまでありらむとんばやれがくく  
すやうよあをてうりうらふのをるも  
へこもやくおうりくわゑみんうりくわくもん  
ゆきうて出まことこまくは黒む  
やうらんとちろく年をうちみよふせせと  
じやうえがりくうれどつまくつこれ  
せじうと思ふまほくをまし、うやまやま  
まきとくとくとくとくとくとくとくとく  
まつづへたるふとこれとゆうさんとゆく  
きのまつりやま盡人、かまもよまくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

すくさをこもらひへ

あやとむづらのあもつまれどもふりとみ  
ろよそおひえそうとひえもうじう  
うそほて感してゆきうちろくをゆくか  
なまけやあくし

今やる奈良の大安ちのああうきり僧の女のと  
と小老人なりりんをじてうふふうと小さめて  
思ひゆきはやせやいは書もとまうりうつ  
のうねたりうる憂ふゆうにとつなうすやらん  
へへとよきてるふひりとつなうすやらん  
とかやうのまきうちゆくされもとうのみ僧毒の尼  
云ううり始てうりとうう人ふたすう五老とさう  
りくうだらうりうなれとそめのもらまくさうの  
てりくやうしと多ひとくくみまくしあくね  
力ゆをたるうふれまざりとて墨ひくとをし  
るふとひつてのミとてはまもとひやかくのびや  
かりゆうくとてのびのうとひやかくのびや  
じくのもうり下らうよりとてはまもとひやかくのびの  
まくいゆうとむもつうおこよまくうをもとす  
も大りう銀ハうううりう鋼のせと一つくらひへ  
てゆもとすれもこれゆきりてげそくらうたを

すうそをまつろきてりくくのじ日暮うちよ  
まくゆりりりうみ角とまなたてう額よ又あ  
うじふりり勢ときてうつうけと巻よすへて  
女まうりてまたりおきくねと力まんまうも  
思へりあさかくてまふと思へねよ夜ゆう  
ねぢうまてみまくか房くひめどりてまうも  
うらめくまとあくふとやくてぬあうものね  
をくふよまうびうらめれかくやみもううり  
ときくくぬくびうらめしてひとの思はくも  
りおむまくらかうきよとひいて物をくん  
すしてまくねうのくちきるよくとへゆうき  
歌うう

まことちの子が辛うきうの月畢一かううう  
うせううやううてきのへうう似ぬうりぬ  
まのちやこれいりかして世ようせんすうと思  
てうけうあむおの寂ようけくせのうりりう  
うううううらえ聲とらしと母へりとめりうと  
まうしのうどひうれ長おうろひて聲よ  
とらんととととととて聲くうりうれおなもて  
聲まなと人干ううて月へううううりまとうう  
えわやうよりてうてもくらうううううううう

うりのまやへ、一々おもふてほくと思ふそ  
よもくつゝお書あうてまやとおひりに、うきし  
と思ひつゝしてもくら一人おあれ家の天井は  
のちもてかこ神ころぐ人の事でひくと  
みさきてひづりてひづりくぢさうりきつゝ  
であらばまことうやまくまとふもこいづりをお  
ちてをめれとまうせの人たんきのうづりと  
りふみつけりうなちやとましりふる三枝下  
てよくもつへりこれもつふくへりくそと  
ゑもひすもつてつづへりくならとつふ思の  
りふやうふれ家れじまちひま飲むて三年よ  
ありやうとせうまきしてゆくをうくふうと  
ぬまうゆのとくらうてうよひひくふうりとくら  
たすけひをといても思ひとくわくまこときり  
一いしてつ色うしりんら食とやくちやのぼき  
りやうとみづみ聲うづりかづえどりふちう  
とくわくとめうふうれぬくらう食とおがしそく  
うふ思ひもととの所へこもととくへりくと  
くううくとひてうまうふ思もあうゆ  
ねきくふもいのうりうらとくもあうくと

さて人間の目鼻つあふよとまくへる  
やうばかりひこきのうてあくみこゝそやをもるまの  
れてものからうせりてせゆいりりてせりおひきを  
めりうらさうとつぶあたはうふと一かひみえまくと  
ちくへそくそくせうろまゆはやうせりきあり  
けくふよありりうわおおちならとうくらがくを  
もうせよおしと思くじつうりよをねむらう  
室をもんじりてうそくせりつまくにうま  
よくてそめのうじくらうきくとてゑらよすだ  
家を造りてすばせうへづくとてえきくらう  
今き萬水のまく門の傍河ノ一應天門やあわへ  
かほきうちかひんのうけうれと件考男とくへ  
大泊まあれモ信のる長八志見さうふとあくわあ  
イヤウのそのだくとほこきんとじくせよ  
けつよ忠仁公世の政を継ぐとくやのあ三承ノふ  
る馬よおきてあひうわんちしまでぞもとてぬあ  
はありのてこれとヤクル謹言する所へれ大す  
にうきせぬゆわんとやうひとおりう事  
をせくへくへしてまたやまかううりて六  
ことうせほくまうとう一萬年まよと

おまへつてこへまきをあよ一宿ともまくとされ  
その夕たまづりあらへりうきあさりぬへうだく  
はつゑききりうかのがくへますくもくうゆとうだく  
よもよとくのつみよもくとゆじうゆきて  
自八度まして遙よあしこもと一きてりく天を  
ようくへやめりくじゆうへまよ西使よひのね  
馬子のりなうくせううて氣れそりうみぬせら  
珍く伎うとむねてひと家うたひくらうにゆう  
活うくがうせうくぬのまく又うろこひすえお  
のくましるうくのりやれあまりまくとくや  
けりけりうあつうてやくとくのい地とくよゆく  
かうとくりとくじてあやうりとくへつうよまつへも  
ちぬをさりうくまくはくとくとくとく  
林ノはら景東川  
全人すゝもの東川七條のほりくうけつうるまり  
て被ふてあよぬうとて燕太門のあととくびつう  
よくたけのことくさくくらうくの腕よくこれ立  
てそれモフーうらうめ、くらぶおとくおまうや  
くそみきへ伴大綱へせはよ子すうんおが又はま  
小ゆうあまくとよほこ云おおとく行まきとてたま  
ようあくしとあひもとてみうようの三人ぢりと  
あふまくわゆまくじとむじも家ふまかひ船よ二

嫁姑川のほに初よた因べるよめうりとて大路  
めくらみみくらてみまへたじまのあとすく  
里ぬたまもあく門のなづつるりしもさり  
タリのうちつぶへとをこたおはくがとての  
やりらまうさりとじめてあれらと人のまふう  
まうたまなれもあへてゆきかよりくさりう  
のちかのれのちのうすゆきほとううり  
せん一せんひめちうりくのうすゆ  
そくえいとあや、ゆくこしへこすくえい  
まねんとくと思ひうりくふらんゆう  
思ゆとまけをほきかれてとやむるよめうりく物  
かうらまとすんせんうくて九月計下りり  
ころねよ伴大酒まれ出納の家めぢるきすと全  
へつ小遣とゆきひきてお酒めくえもし  
てくまこさんとすよひが納むりくいてくみ  
取ようてひまほうちて様子をくわへてくみ  
とくのすげつまくとくとてくらかをしてくまと  
よきアひきひだりもくきてへうてくまと  
ちもくなまけなくあひもくやくまども  
と股くまくしてくとをりつてくまけたくわ  
りくのとくをすうやくもくとお納よや

六まわゆるふうと神りたつぶだれのむ  
やあんとまううらへんとけりれわうへふう  
わうあ大納を没力がアトキをへつまきもやま  
ちとあくこまくはんとめくつえもえと  
ゆふりこりつひ、ゆふりと神りおとまよつ  
あてれまなれとツみうまくの大納を  
とつうのまよつとめうを)を我らうるて  
くよとぞもまくもあくわうよくらうきて  
とめうも人てもめうなりややつりのまき  
出納へまうもうして家ナリモ入ようりあの  
りさひとすとそま隣の人へらとうてまく  
すよのアラウモ人間ノイシマラうしてど  
ミムヨクをよひろあるてむくやままでまく  
アヒリキとまくまくわ飛アトカウタマサア  
まくアリのくくのじくせアトカウタマくらち  
納をりとまくわアトカウタマアトカウタマ  
はれなれなれなれなれなれなれなれなれ  
まくのまくのまくのまくのまくのまくのまくの  
をたまアトカウタマアトカウタマアトカウタマ

されと今きる放ま樂より樂とも運已達して  
人習はんへ立ち入り向河院豈初幸もさてとひ  
けりテ山階ち叶ニ而カ僧行イヨリテアリよ  
ハキムかレトスアルモトヘアシモのツヤヒシ  
得リテアリシムヘミシテヘタリ是とトヨ  
是來やコソフ放聲樂をヒヨモヤソヒタガ  
ナリとこソムモトウラ坊や一ノモキテ行カ樂を  
使ヘヌ

これも今も堀川院の近阿奈良の僧も乞う  
てたゞしわの山頂迄おこりテヨリモ運  
中止まざれ時アリ主よ山苗とあそびけり  
やうく音調子をうつべうせひりゝる運調  
子レシ小聲アラヘモナケリテ主よりやアみ給  
てあの僧とアリの主の運じこまつまて運ア  
終経よりりてのち主て菴子ヨヒヨ苗やアト  
もをだしじりきふくのことをけりもうせられ  
のうよお歎樂とえのひすゆもけきを所感  
てやうてうた苗をゑじてさり件の苗行ひてア  
やうてああやけうりと小なりト  
これも今も天曆の「あわら」に单説うやううカ坊  
にヨリテうた苗へミテルありありと歌よやを

タチトモえり残みとまくのくちもくみてあくまくとくのくむ教訓をふやうく  
あましこすとだあくの淨益をせんに登りと  
てやくゆう一箇もしてシヤナリモ阿木盜人  
とこソツコモ逆ぬけりと  
今やもりとまの守護と尊えり子より心人とそ  
ス柔らかはよめうとものもこればれうわきしの  
とつともみえなりそのまくゆハ内は守護を  
うりうらとアハ内へくらうう道とてア  
ラキのゆくゆモ内が身とソヒノメが  
まくううりげうそのうらみあるうをやにあめ  
まくらま牛うりウリキ牛とくらうて車う  
りくらを遣りうひつ代擣りて牛うりう  
く遣てうご輪と橋うりだうりうりうりうて  
車い橋うりうりうりうりうりうりうりうりう  
て牛のうきひろあるまでなううううううう  
て車へぢうてくにけようりうは一つれ  
をうくうくまきてそまくうくものうの車きりうれ  
しおりうれくちうくとくうくうく  
いヌ丸う一バカううくとのきのへとひやう  
ううくてこだうとくうくうく

ゆうか一てつあらとくふまとりてう勢はれ  
つこきつうすとうせりのこもをとす  
れくまうらわくらくくもをくうてゐり  
さとまともむけまがつめうみつばうしと  
さひほとうげくわとお河内お身の後アフみ  
やうえんゆくまうちりいきをあれも海よお  
ちへて死りとまくんきりうる来よもや思ひ  
思ひりうひひ死れやゆくまづうりやう我  
をひうしとうのすまうりうれうま日お一もひ  
つう八月のりこよまうりて苦としけぬうり  
うれよまのまう飛つうへて苦のまふりてやも  
くらまもあゆのたへすてうらよりうりがく  
やまかあのもううううの車牛へらうの  
ほくくとひきてるよいうくさりものうせのぐく  
立日うるく六日と一ううん己の時つるまく日  
まじんぐくかきやうひうやまうらううう  
ううえとようううねといひてすれりその差  
ううう六日と一ううの内計。うううよび牛あ  
三入りりうううみく大事。まううりて  
せりよふうれいをまとう入もありくこ  
りうれい一車だらへとまうう  
ううもううふれいひくらうつよま牛つ

とて備てがてありきりやうりあんとぬけ  
駄をぢう一ゆゑにこ河内あゆくこよし  
今きも山陽道義他國す中まつりやや下御ゆ  
まつりやまくらうも中まじを寝内とて甘え  
だすすうれ御幸へられ矣よひす生覺を  
まう人のひまちのくらよく嫁うくまちろく  
カヨウカヨウりくもくくらうひをかうとうえ  
アヤマツくまうらうあとも今アリヤベロキテ  
の余れこなまゆすされよう人の女生覺子  
ミタラくらえようちもやとく力あつる。じと  
限うくえむや子こゆくとやあたの母の夢  
うりえりや一玉露ふをこうふややくへ  
してようがくよういたされがま、増えてこうう  
なみ思へきとめりとそひつへゆねへるけ  
えにうつ月日とことほとせやくくせ、またと  
親子とちひみとことひつへゆねへるけ  
よつあて。よそつそくの事でくねをりみた  
くねとふうくの人民狩とひふねとのこと  
よて猪八百とひくとくく股もくもくもく  
をもひそくまで殺さうふくもくとくと  
うおひくとくもくもくとくとくとく

つあようゝ哉おのきの月ノ里とまくらすより  
よたらうくろほとるあの女ひ父母ハモヤヨミト  
さりおはすうてのくよみの父ハリハヤテキのれ  
びとりのくひふかのをりしきのいり・る  
よアもくられぬまも思くううきめりして  
おん月日とゆゆう世よやくらうくるうりさえ  
ひをよひうむとゆく黒てあの国アマれて  
ゆう目とみゆうらしうのかもひよかわ  
ゆきまくらえゆりうこもうかわ、や  
あくねようううううやうやうもそのまう女とモ  
ヤシナシテ宣うづきまかぬなりてり色とあ  
外まの人民くその人をそハ犯下トヒサシモ  
人。ようモジモすれんを命るもとあと  
カカタタヒふじそ神もおうろー氣へたまの生聲  
をわきとしてうれゆあとまうづきようちのあ  
てし元始もしもむき一ややよじをれり  
うづきまくらとまうづきくへうをぬかと目めあ  
よりきかうづきうをまうづきくへうを  
そみ活もんきーうづきくへうをやまうみあもん  
えがくすうりとまうのもとおようけ活へと  
きて三ぢんとみんよりハよそとまうきくへてあ

アヘン代かのりにひてみせられ、らすく  
がうすありあひえうすくあはくもそり  
あててもゆてゆてお望むすうすいかなぐれ神の  
ごへゆりておれらるる様よんれりのひの  
すれも嫌とうがうすくおとよまくみせ  
れふやくかみくよつまれて思ひ立たずてお  
なうすくんせきこましよくおとよまく思ひ立  
けひしてすううもじきくもじくとふ  
らうたをがりをえそらうくわふくあうり  
げううたをゆかくのすきくとれあうり  
えとみよくまことつまんくわうり  
きりんまくくお力をくさうをかれへこれよ  
うもりすんと思へば女力父母うりゆう思う  
まふきーくうゆきーあの毛だぬのふよりてぢ  
うひどくらぬもくうとわざりきおへきくそ  
てあるのねうようりうそりくつうもくそ  
きれえすりきりうそりくつうもくそ  
あねくとりうれをゆくもあの所家の活きよ  
すううりうれをゆくもあの所家の活きよ  
りを活きよそくとあくよも一人あ  
きうを活きよそくとあくよも一人あ

思ひすじしとみてる頃までは山はほり  
なうもうちいぬれのみミナリ小やへあれと  
あつえりてよきよめうる猿肉ととくづくの  
れハやくと食らひませてかうもあうね  
お猿内といゆどきがまかうもやへうりか  
うもせ猿とみへやとまくとひら  
をす眼りまくゆくれもりうれだらとみうさ  
刀とよけつゑまくあうりゆくまきくちりのあ  
くくまよするやうちうれをつせよりうれ契を  
して西宮よかにまくつりうりありぬなんと  
すもそれと岐つまつとせぐて金をすうだ  
うすもくふまことせんすとゆひよむうも  
ゆほそくうくわなうきくいともかもまくとす  
りうなうんたくむぎりてゆきのうあよわい  
のけあられてつりうりてゆきのうあよわい  
まくむけ相のうのゆのゆかがりてまくつさむり  
つめよがうひくここうゆうゆアマテ述のう  
さへ入てゆやうが八つよあれよりきてうれ  
生鶴はくわくとくもじばうのうへんとくあ  
くひのあくうううのやうんあくふあくへとて  
ほ樓はみそつまつまつてらふれうをよこれい

れともとまひゆきてつよやうをれまらふ日  
ろいへるこひつせひめじめりそびだひのよく令  
すあられものきらうとひしてつあちゆきもうち  
字めきて歎よづひうひてまれやね又自はとれ  
みうきうがうちうかみよとまきせじてりう  
のわくをわむひて布してゆひて封つもく教ひを  
め沐きさらやうよおももをてゆくつゝれ  
ち样柳絛ひやとゆりあもをてあたをひの  
アソリてあくあゆとゆりあもをてあたをひの  
我よりもまえに代男のゆくといぬくうやや  
あるされとゆふよ又ぬゆよあとりとこもり  
おやならりとせしきんせうとようけよせうと  
されとまえのゆくやうへあひため小よく神も  
佛とぞううとくれあゆるなれも今をもうう  
だくとくうわく一重とくくてくとくきりとく  
今をやうひしかくうとくじとひめうりく  
て生鶴とゆやしろすりてあり神主ねやうす  
くやて神めまく人のやとあきてこめ長持とす  
へてアとりこへやうよあてうれよりかのこ  
よえげつせくくとくのくまひーの日とくほ  
か。これすひ居たりゆうじらふほいつをかれ  
ざれにてみうにうふとあきてちくア人み貴

さとよをひのくすふきう猿の石を七八尺つる  
なううぐとあらとをうくしてひこつこと  
まくわうやうよつたくもろまくげくわじうつ  
かうさあしてよと産子うらりぬけくの猿  
とを左あは二百うるういゆてゑくはうとも  
アキアキあゆとうきしゑくはうせんざくひ  
ちうりとおなうまおつてそなうやくかくもう  
らやううこうくうかくして玉だらまくまよを醜酒壠  
へうう瓶とをあらりとみうわやくとをたりさ  
てもううつもうほとよは猿産イサラうそり  
猿よりまきてお枝のゆひをくとみてかことめあん  
とすれこみうひくの猿とえれよしとすれ  
物よひ男のうこくへそめれといつてニのい  
ねだどまく中よたかう猿とくひてうらかを  
さひきりて食ううさんとすほとよは男猿を  
みこまで枝うちがく出く冰いやうなるうか  
をねえてうれううがまう板のうくよひくとて  
うひよがくひばらくよひくと食うくもう物をくう  
ゆとあらそのあらむと食うくもう物をくう  
ううをのううけ活まれうふしやくひまう  
ていねまうひととをもじかをうくうて  
目とももくまそ歯とううろううくひまう

もる血力絶てうりてまわやまうふとまつ  
作あつてひきすりつりのとくゆるうさと  
ととのあらうとまく力あらきのうはれす  
をとくひのうのうちのうちのうはれす  
てほんと唯今はもうあれとめれうかゆ  
我とよせえよせうすとひなうゆを  
ふくのきとすよまわやうひうをみみ  
二のぬきとすよまわやうひうをみみ  
おのじへすのうまちうひうをみみ  
まは山めひくそ地めくらゆへしるほと小  
てんむねまはれつきてよやうよようりぬ文  
きよみのつけにあとせうおうくやくせんへ  
とくろをあとくまとくこくらゆとたうすくも  
あくくぬう又我とくちうとくは男とく  
し又ふの生聲よおうりつぶんゆうとれ  
ううううひようううやまうて我まよとまし  
猿くすゑくくううひの我命とひうけとや  
うううううとをけうとのあつしま自詔主より  
うううううへとぞとろきをうてこれ  
やううううう入うてうしきうううくを  
すりてあらうとくのうううをゆううくを

邦の久遠事もうくうらうとひをひをこへ  
うり下人されゆりされそ人のうちとたらしも  
モ西されもまやけよとばくよりさあくちをも  
やくせりもくもあされゆくもろきをもく  
うすとどひて支ゆゆうとくもくほくふくに様  
のくじをえりもあられゆとえきもまほくさも  
あきとひとまくよとえくかくひのうとよ  
ちうらもとまくわやて今うみのりをあく  
くえくくまくくひくつみもへくもく  
くえくくまくくひくつみもへくもく  
かうてゆタ一いざもそきうをねもす  
くすとくよせとからゆらうとくれ男家ようう  
てソメノ男あらひ思ひて辛うろれ妻足う  
うりてすくタリ男ハリヒトロミゆくうりげん  
のすみからくわゆくくくわゆく下子てゆらうと  
モぬやうの國よ猪康ときし生贋ゆるらうと  
今やも柏原川山門の坊子のふれぬ子とてこよ  
ミの大ききとくへうわらうと四極子て日ハ刑ア  
ツ大和守とて大金けの西敵とこうだりよもく  
とて除目のあらんとてもと國のあらざうもく  
のそじんあらとと國のやうふくうとくその人々

う凡國に守りておきうらそひのんを理をく  
コトと色をうへなむ國にふるひるべりうめ  
とへきて除目のねはれたまへとくつゆのじよ  
つよ事へあつてゐるものうちの大ものをうへうら  
りくやあへりひてらりくのうれよやほたふ  
人家よいきうとひておん立ちゆへとくふんを  
手とすりておろひえもくとつよとくくへふ  
ひとやかふゑとひたるよかあうらくの作まつ  
てくらふようちあつれり、つよやきこなんぬ  
けりうくするべしとくふんうりて不ゑよと  
人きりくらとくわされらとすんせよへ  
うりけりそれえおやあそとくされの大あきい  
くちとくとくうとくはうざれもしうやけと  
よみだれ大あそくうらりくとくひうとくん  
きくくひんよをせえてとくへやなんめられけり  
えを田村水の六うきの田町よしをりよや  
今か某國鞆院の清村よりとくあふれほよなれ  
ぢううううううううううううううううう  
ねううううううううううううううううう  
ちううううううううううううううううう  
額をあくのうへくとくううううううう

カツセキ小堂まで食取したてたひやねこそさう  
ラシツ主役用よし凡式ア墨の跡云々「うむね  
うれどせとの所曰く所へとのものよりはけうこくまで  
ありますよもくうふうやうそうこよすちやーと  
ヨウヒテテトヤモサハナリテテトヤモサハナリテ  
タモリホをみてうりとりとりとりとりと  
お替へをねがうううううううううう  
タモリホみみをちら見やねあきとてあく  
タモリホこれ法用の下取ツーとくまづくと  
がくひらりのちもあきとくとくとくと  
せえ東のちもより出まへよるわとの方をみて  
角の人あるつまう東のちもそりのくとくと  
そそそそそそひひひひひひひひひひ  
ちえりぬよれあきまなうううううう  
ミヘミヌモタリねらんのやつまつう祖<sup>ア</sup>又の  
三候玉をひくへんちでさりぬつあくくくみ  
りしほりゆう四つあや、もし今ひりひりゆく  
サヨツもうちて新のねのまつやうやううう  
ひうううううううううううううう  
キモモモモモモモモモモモモモモモモ  
モモモモモモモモモモモモモモモモモモモ

子と併せてゐる事も多々有り候と申し  
爰よみこちけり

の下をあるまに小櫛山あとへてうりを生れた  
子アリ羊博士なりのありふへ衆助となりひ  
けり主計次忠治父淡路守大友史事親ノ祖父や  
のきだりを承ることなくよりゆききのなれも  
りてりくもうなりし是つあらうすとすへの  
うちのめと助太浦又はや良人やアーロウ  
アマヤアモソシリナリケンけむもううをうと  
すアスヘチアムトコムヒムカモウをうと  
けきか六七十九せのがほもやシカキモニ  
くよりりてのあはりくてとうひすれと思ふ人  
あつるあのんのん家よなととくしまわのうれ  
陰陽師おぬとど、ヨリシテくとくにゆく一  
つ又回ととまわいてくとく努たりあれうれ  
小門とほくとてゆゑして居アラキテ敵の人  
くれて陰陽師アリ死ゆベヨヨシトとせう努  
れのうもけりしげつま日かくうわゆうの日  
のうひつもきもうあらうあるくえざれもきのま  
きとしてそのあはりうてうひのくの門を物  
愚か

なまじのうふあくづりすんといひひきを詠  
師とくしてうれつあるはて口をむひゆき一室  
をきけりそりもゆくとぞなまじのとよてふか  
うそひがれもうれびうとみのとよてふか  
思ひうめいよひまわる思ひかわどもほそりふ  
あきてひきゆへたきのとせりとせりとせり  
も下を男ぬへるくさんとせりとせりとせり  
女夷とかり世ようく凡が思ひねやさづくえ  
り連ひとまつらゆふううなりとくぬまゆ  
ねりとすれを又ひやうゆもつやをもうゆ  
めりひとまつれ遣アシテ教をゆゆぬへおつ  
まこえんとりをとせりやまき高世やうりもん  
くもとくわらひやのうふとくつゝにちを先  
を陰陽師とせりとまくふとみくすくまうえの  
ろひつれんもんとりよんをうよ大事す  
もんとじひはきとくつゆくまくじくほしねへ  
くくにかなへうつまくうれうれむじと思ひ  
てあつてまつうりもやううおねこつも大す  
もううううりりうううううううううううう  
もがほしゆまかやうひてうまくううううう  
てゆううううううううううううううううう  
やめくまやうううううううううううううう

おもひうへうよまくすうんたまよかうをよ  
つあてくらよくせすれもとをうるよまゆるり  
ごそものうひこときをやくわゆつほとなくて  
狹よろひてふくらむとさかよせひりくわやさ  
くまゆなりとすんへやうし

おもひうへうよまくすうんたまよかうをよ  
つあてくらよくせすれもとをうるよまゆるり  
ごそものうひこときをやくわゆつほとなくて  
狹よろひてふくらむとさかよせひりくわやさ  
くまゆなりとすんへやうし

110X  
401  
8